

## 5 共生・協働のむらづくり活動実践地区の紹介

# 「羽島」を守る語らいの輪 羽島地区萩元前団地保全会(いちき串木野市)

## 背 景

羽島地区は、いちき串木野市の北西部に位置し、中山間の傾斜地狭小農地で農業を営む人口1,748人の農村地域である。

高齢化率46%と地区の約半数が高齢者であり、多くは古くからの居住者や定年後の終の棲家としてふるさと羽島に帰ってきた方など様々である。

文字通り美しい自然に囲まれ、風光明媚な羽島浦に面する羽島地区は、海の玄関口として古くから重要な役割を担ってきた。

歴史をさかのぼること約150年前・・・。19名の若き薩摩藩士が「さつま英国留学生」としてこの地から波濤を越え、英国へと旅立っている。

さらに西郷隆盛にゆかりのある萬福池や西郷堤など歴史的にも重要な資源が数多く残されている。

昔からまとまりのある羽島地区では、平成28年度に大学生と連携して「ふるさと水土里の探検隊」に取り組み、地域のビジョンを考えるなど、地域住民自らが創意と工夫を凝らしたむらづくりに取り組んでいる。

また、地区では、6つの保全会(土川、羽島下山、萩元前、大谷口、参幸来、白浜)が地域ぐるみでの保全活動に取り組んでおり、特に、萩元前団地保全会は、高齢化の進行に対する危機感から、ほ場や農村公園、コミュニティ施設の整備を進め、農業・農村を中心とした地域コミュニティの形成に向けて積極的に取り組んでいる。

## 活 動 内 容

### ① 「羽島」を守る語らいの輪

話し合い活動により地域を盛り上げようとするリーダーを中心に、農業者だけでなく漁業者なども参加する様々な活動が始まっている。

また、ほ場の一面にテントハウスを設置し、話し合いやコミュニケーションの場となっている。



テントハウスを活用

### ② 小学校と連携して取り組む食育活動

子どもたちや保護者等へ米づくり体験の支援を行っている。

種もみから稲刈りまで、一連の体験に合わせ、米づくりの苦労話や収穫の喜びについて話をするなど、高齢化で年々厳しくなる農業を、楽しいものにしようと毎年、積極的に取り組み、農業の理解促進を図っている。

### ③ 伝統芸能の継承による地域住民の交流

羽島地域づくり協議会と連携し、秋の稲刈り後に行う、「田ノ神子供相撲」や「棒踊り」の披露、収穫祭「秋上げ(あっきゃげ)祭り」など、伝統行事や伝統芸能を継承しながら、農業者を始め地域住民のふれあい活動も盛んである。



秋上げ祭り

#### ④ 大学生との連携による交流促進

羽島の魅力を語る会や地域行事に大学生も参加してもらうなど、積極的に若い力を活用



鹿児島国際大学の学生との連携

## 成 果

#### ① 「羽島」を守る語らいの輪

この話し合いがきっかけで、源氏ホタルが舞う地域の清流を保存しようと、河川などの自然環境整備等に取り組んでいる。

#### ② 「黎明米」の生産・販売

地区の方々が共同で管理・収穫した米「黎明米」は、学校給食にも活用されるとともに、ふるさと納税の返礼品にも採用されるなど、好評である。

## 今 後 の 展 望

羽島地区を、農業者だけでなく、漁業者等も含め多くの地域住民の参加により、地元大学等の若者も取り入れながら、「羽島」を守る語らいの輪を広げ、「羽島まちづくり事業計画(5カ年計画)」の実現に向けて、地域活性化をめざしていく。



黎明米生産農場

## 地 区 情 報

#### 構成集落

萩元上, 萩元下 (2集落)

#### 人口構成

(1) 総人口112人  
(65歳以上の割合 51.2%)

(2) 総世帯数 59戸  
(うち農家戸数 34戸)

総土地面積:129ヘクタール

耕地面積:22ヘクタール

主要作物:水稲, バレイショ等

#### 問い合わせ先

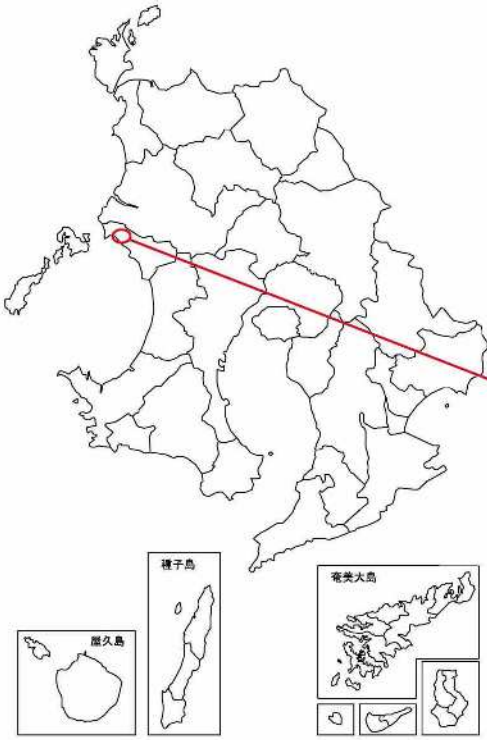
いちき串木野市農政課

電話番号:0996(33)5635(代)

鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:099(805)7273

# 萩元前団地保全会活動状況マップ

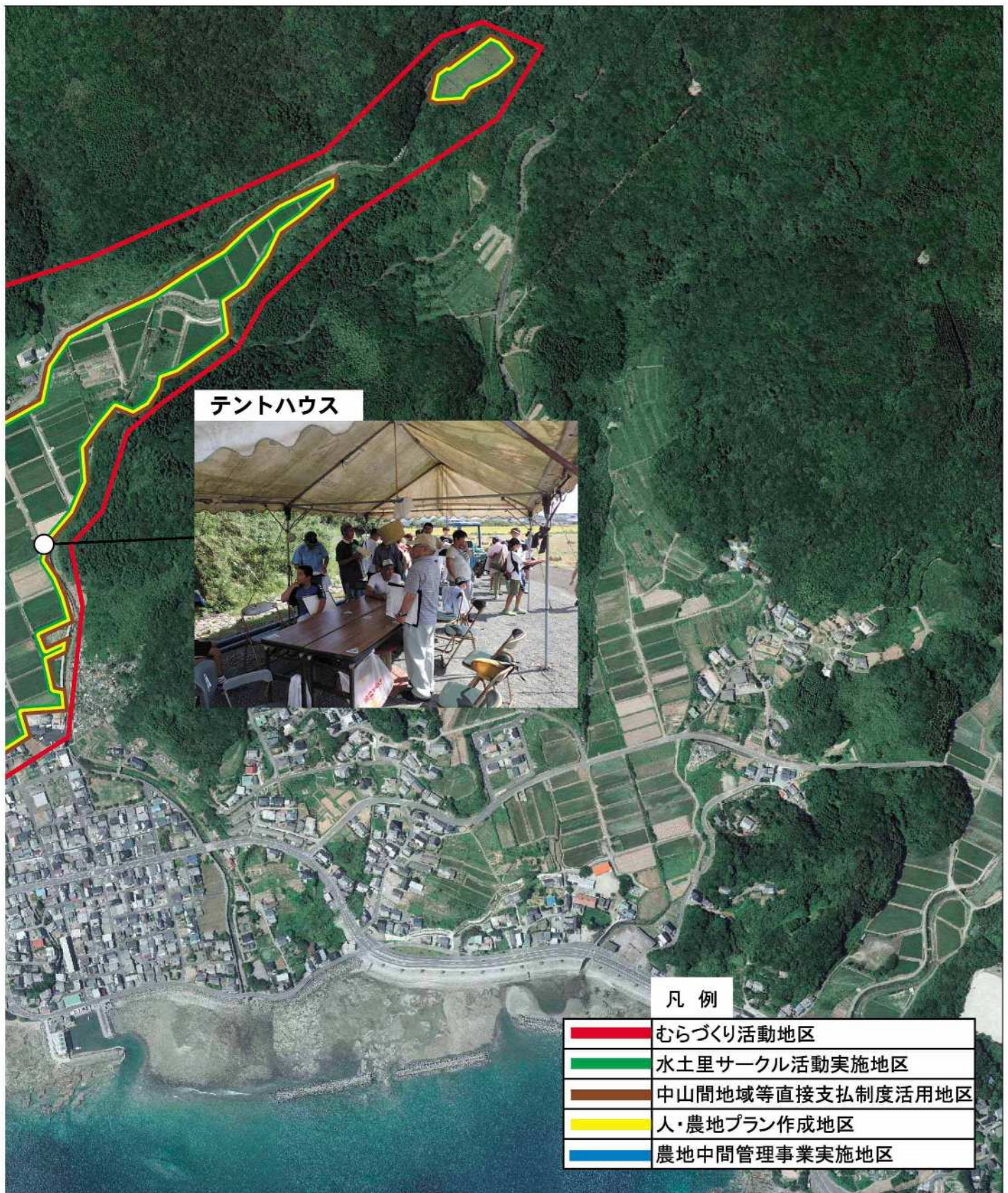


## 羽島交流センター



## 羽島小学校学校田





## 共同活動が育む地域の絆と郷土愛

### たぶがわ 田布川地区(枕崎市)

#### 背 景

田布川地区は、枕崎市北東部の南さつま市境に位置し、稲作のほか、畑地でのお茶、甘しょ、たばこ、柑橘類などが盛んであるが、耕作者の高齢化や鳥獣被害による遊休農地の増加、少子化による伝統行事・郷土芸能の後継者不足などが地域の課題となっている。

そこで、平成24年に設立した田布川(水・土・里)環境保全会では、公民館事業と連携し、水土里サークル活動により、積極的に地域の共同作業に取り組み、むらづくり活動を推進している。

#### 活 動 内 容

##### ① 「ふるさと探検隊」ワークショップ

平成24年度に地域住民による集落点検やワークショップを行う「ふるさと探検隊」を実施した。地域内を歩いて課題や地域資源を点検し、改善策や資源の活用法を考え、地域の将来ビジョンを「夢マップ」として作成した。



みんなで課題を出し合うワークショップ

##### ② 農地中間管理事業による農地集積

平成27年度には、地域での話し合いを進め、農地中間管理事業を活用して、隣接地区と合わせた農地面積85haのうち30haの農地を担い手農家に集積した。



地域全体で行う農道の草払い

##### ③ 交流活動による地域活性化

江戸時代から伝わる「田布川棒踊り」は、後継者不足でこれまで二度途絶えたが、平成6年に復活し、地域の小中学生によって継承されている。秋祭りでは、地域内外から大勢の観客の前で踊りを披露している。

また、20年近く続く地域ぐるみのコスモス植栽や毎年1月の鬼火焚きは、地域外にも参加を呼びかけている。



地域内外から150人以上が参加

#### ④ 買い物弱者支援

平成27年8月、集落営農組織「くらたの里田布川」の有志が出資して設立した「株式会社輝楽里たぶかわ」は、高齢者などの買い物弱者対策として、閉鎖したJAの空き店舗を活用し、生鮮品や日用品を販売する店舗として復活させた。昼どきは、惣菜や野菜を求めて地域の高齢者が次々と訪れ、地域のサロンとしても欠かせない存在になっている。



きらり  
「輝楽里たぶかわ」では惣菜も製造

### 成 果

- ① 「ふるさと探検隊」のワークショップを通して、住民に地域の課題を理解してもらうとともに、地域全体でビジョンに向かって取り組んでいく気運づくりができた。
- ② 農地中間管理事業を活用し、担い手農家への農地集積ができたことで、未耕作地の解消につながった。
- ③ 地域の小学校が閉校し、子ども達と活動する機会が少なくなっていたが、他地域も含めた子ども達との交流活動を進め、地域の高齢者等の楽しみが増えた。
- ④ 地域内店舗の復活で、高齢者だけでなく、地域住民全体の利便性が高まったと同時に、拠り所として交流の場を作ることができた。

### 今 後 の 展 望

平成28年度は、「地域おこし協力隊員」が田布川地区に派遣され、様々な活動と一緒に取り組むと同時に、地域外からの視点が加わり、大きな力となっている。

先人から引き継いだ『ふるさと』を守り伝えていく活動は、いかに多くの人に、地域の宝に気づき、愛してもらい、その気にさせるかがカギであり、人材育成が最も重要である。これからも3つの地域目標を掲げ、地域全体で取り組んでいきたい。

- 共同活動を通じて『地域の絆』を育む
- 地域を知り『地域を愛する心』を養う
- 『自助・共助の心』で自己解決力の高いむらづくり

### 地 区 情 報

#### 構成集落

田布川(1集落)

#### 人口構成

- (1) 総人口 293人  
(65歳以上の割合51.2%)
- (2) 総世帯数 164戸  
(うち農家戸数 42戸)

総土地面積:93ヘクタール

耕地面積:53ヘクタール

主要作物:水稲, 茶, 甘藷, かんきつ類

#### 問い合わせ先

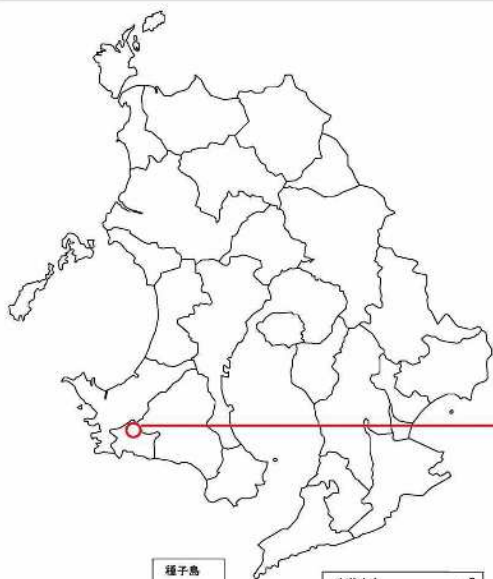
枕崎市農政課

電話番号:0993(72)1111(代)

南薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号:0993(52)1342

# 田布川公民館活動状況マップ



ビオトープ



鬼火焚き










「輝楽里たぶがわ」の事務所兼店舗



田布川公民館



凡例

	むらづくり活動地区
	水土里サークル活動実施地区
	中山間地域等直接支払制度活用地区
	人・農地プラン作成地区
	農地中間管理事業実施地区

水土里ネット

## 地域資源を活用したむらづくり くまの 柗野区（さつま町）

### 背 景

さつま町最北部に位置する柗野区は、米作りがさかんな、のどかな農村地域である。

その一方で、昔からシカやイノシシなどの鳥獣被害に悩まされており、国の交付金を活用して金網柵を設置するなど、鳥獣被害対策に取り組んでいる。

近年、過疎・高齢化により地域の活力が失われつつあり、また平成27年度には小学校が閉校となるなど、地域の存続が危ぶまれている。



平成27年度に閉校となった柗野小学校

### 活 動 内 容

#### ① 柗野ひがん花まつりの開催

毎年秋分の日で開催される柗野ひがん花まつりでは、郷土芸能である棒踊りが披露されるほか、地元の農産物の販売も行っている。

また、駐車スペースの確保や祭り会場への案内看板を設置するなど、来場者の利便性の向上に努めている。



柗野ひがん花まつりを楽しむ参加者

#### ② 地域全体で取り組む鳥獣被害対策

柗野は県内でも有数の米の産地であるが、以前から深刻な鳥獣被害に悩まされていた。そこで、国の交付金を活用して金網柵を設置し、設置後は、集落間の持ち回りで柵の管理・点検を行っている。

#### ③ 桑の葉栽培による地域経済活性化

有志で「さつま町桑青汁園」を立ち上げ、桑の葉の栽培を開始。平成28年度には、収穫した桑の葉で「さつま町の桑青汁」を開発、本格販売を始めた。

### 成 果

#### ① 柗野ひがん花まつりの開催

来場者の利便性の向上、工夫を凝らした催し物などの取組の結果、毎年約2,000人の参加者が訪れ、賑わいをみせている。柗野ひがん花まつりは、柗野区の魅力発信や、地域外住民との大切な交流の機会となっている。

## ② 地域全体で取り組む鳥獣被害対策

金網柵を設置することにより、鳥獣被害が大幅に改善された。また集落間持ち回りで柵の管理・点検を行うことで、住民一体となった鳥獣被害対策への取組が可能となった。

## ③ 桑の葉栽培による地域経済活性化

平成28年度の柘野ひがん花まつりで「さつま町の桑青汁」を販売したところ、約170袋を売り上げた。また、柘野ひがん花まつり終了後も、地域内外から「さつま町の桑青汁」への注文が寄せられるなど、手応えを感じている。

**桑の葉パワ-**  
体感してみませんか!

ひがん花の産地 柘野  
**さつま町の桑青汁**

清き、夜星川が育んだ  
水と空気のきれいな柘野で土作りから  
こだわって大切に育てました。

**価格: 1,200円** (税別)  
全量50g

＜お召し上がり方＞  
○粉末に冷水やお湯を注いでよくかき混ぜてお召し上がりください。  
○豆乳や牛乳に混ぜても美味しくいただけます。  
○工夫次第で料理・お菓子作りにも幅広く活用できます。

さつま町の桑青汁は、**センシン**という品種を使用しています。

【お問い合わせ】  
柘野桑茶生産グループ  
中山 (0996) 59-8800  
下屋敷 (0996) 59-8747



桑青汁販売の様子

## 今後の展望

「さつま町の桑青汁」の生産及び販売を軌道に乗せ、さらなる地域経済の活性化に取り組みたい。

また鳥獣被害が軽減したことにより、安定した米作りが可能となったことから、米の有利な販売にも取り組みたい。

ひがん花まつりを今後も継続し、交流人口を増やしながら、若者から高齢者まで、全ての人にとって住みやすい地域を目指したい。



## 地区情報

### 構成集落

柘野上向江, 柘野中間下(2集落)

### 人口構成

- (1) 総人口 183人  
(65歳以上の割合 50.3%)
- (2) 総世帯数 94戸  
(うち農家戸数 66戸)

総土地面積: 90.6ヘクタール

耕地面積: 50.3ヘクタール

主要作物: 米, しいたけ

### 問い合わせ先

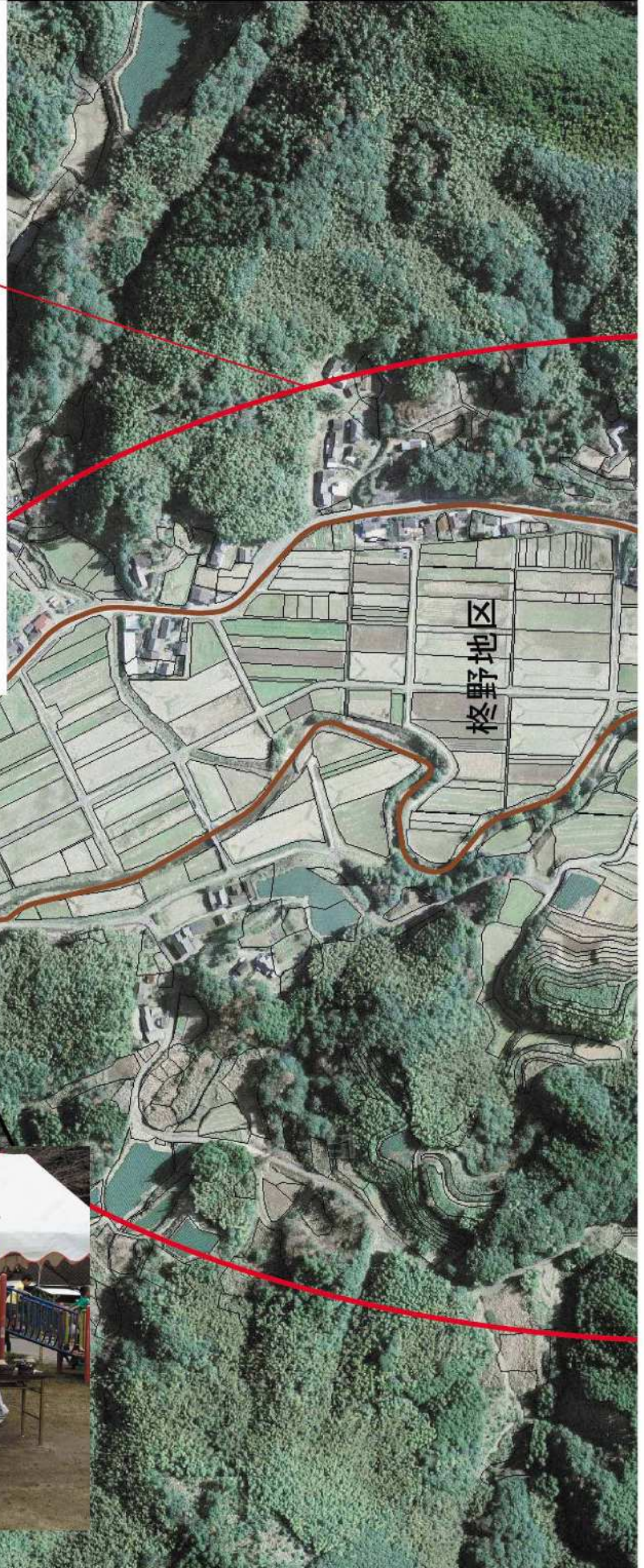
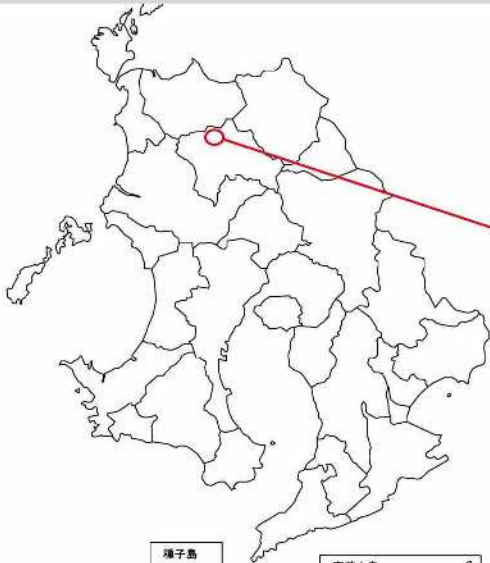
さつま町担い手育成支援室

電話番号: 0996(53)1111(代)

北薩地域振興局農林水産部農政普及課

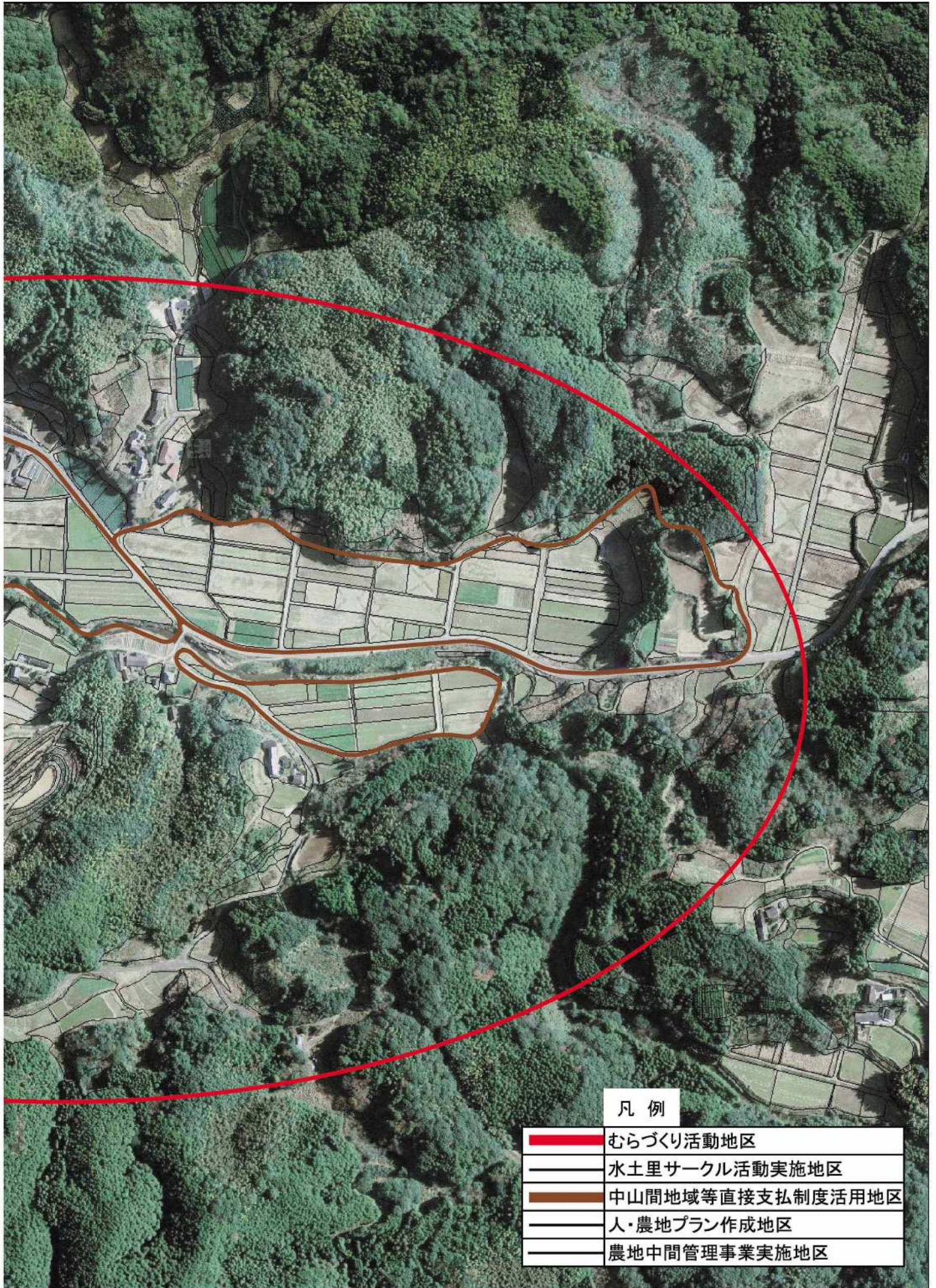
電話番号: 0996(25)5528

# 柁野区活動状況マップ



柁野小学校 (H27年度閉校)  
柁野ひがん花祭りの会場





# ふるさとを守りたい！Uターン農業者の取組

なかごしき

## 中甌集落(始良市)

### 背 景

始良市中甌集落は、始良市北部に位置し、田園と山村風景が広がる自然豊かな人口約56人の中山間地域である。

きれいな空気と寒暖の差を活かした水稻、野菜、竹の子など、農業が主産業であるが、少子・高齢化による人口減少、それに伴う農業者のリタイアによる耕作放棄地の増加など課題が山積みしている。

そこで、『地域を知ってもらいたい』、『地域に来てもらいたい』、『地域に住んでもらいたい』という希望から、地域を挙げて様々な活動に取り組んでいる。

### 活 動 内 容

#### ① 鳥獣被害対策の取組

中甌集落では、近年、イノシシ、シカによる被害により、耕作意欲が減退し、このままでは、耕作放棄地が増え、農業とともに地域も衰退してしまうという危機感が生まれた。

この現状を何とかしたいと地域で話し合った結果、平成26年度に、始良市の「地域で一体となって取り組む鳥獣被害対策」に参加し、地域全体で鳥獣の生態や被害防止対策を学び、地域が一体となって防護柵の設置を行った。

#### ② 日本型直接支払制度(中山間地域等直接支払・多面的機能支払)の取組

既に周辺の集落は中山間地域等直接支払制度に取り組んでいたが、中甌集落はその取組を行っていなかった。

しかし、鳥獣被害対策、農地の維持などの観点から、平成27年度に中甌集落協定を

締結し取り組みを行い、併せて、多面的機能支払制度の取組も行っている。

#### ③ 北山コミュニティ協議会壮年部設立の取組

中甌集落は、北山校区内に位置する集落であるため、中甌集落だけでなく北山地域全体を活性化させたいという思いから、Uターン農業者など各集落の若手に声を掛け、27年8月、北山校区コミュニティ協議会の中に壮年部を立ち上げ、北山を広くPRする活動を行っている。



イオンタウン始良でのイベント開催

### 成 果

#### ① 鳥獣被害対策と日本型直接支払制度

防護柵の設置により、被害が大きく減少したため、これまで作付けできなかった農地を活用する動きがでてきた。

また、鳥獣被害対策を講じることで中山

間地域等直接支払制度に取り組む意向が強くなり、共生・協働活動へのきっかけとなった。

中山間地域等直接支払制度・多面的機能支払制度を活用し、水路や農道の管理、畦畔の草払いなどに取り組み、作業後には、みんなで会食の機会を持つなど交流を深め、少しずつではあるが地域のコミュニティ力が高まってきている。

## ② 北山壮年部の活動

北山を知ってもらおうと、平成28年12月10日に、イオンタウン始良で、「おもしてど北山・木津志」と題したイベントを初めて実施した。北山校区的の特産物や、北山にある県民の森をはじめとする施設の紹介など、北山を広くPRすることができた。



北山壮年部の活動

## 今後の展望

今後も高齢化による人口減少が懸念されるため、移住者、定住者を増やす取組を行いたい。

そのためには地域を知ってもらうことが重要であることから、竹の子掘り、そば植えから刈り取り、そば打ちなどの農業体験や、北山地区にある県民の森、北山伝承館、スターランド始良、農産加工センターなどの施設を活かしたイベントの開催、始良市秋まつりやイオンタウン始良でのPRイベントを拡大したい。

イベントなどの開催は、地元住民も楽しみながら、地域で一体となって取り組んでいきたい。



始良市秋祭り



そば打ち教室

## 地区情報

### 構成集落

中甕集落(1集落)

### 人口構成

(1) 総人口56人

(うち65歳以上の割合71%)

(2) 総世帯数35戸

(うち農家戸数16人)

総土地面積:18ヘクタール

耕地面積:14.8ヘクタール

主要作物:水稲, マコモダケ, 竹の子

### 問い合わせ先

始良市農林水産部農政課

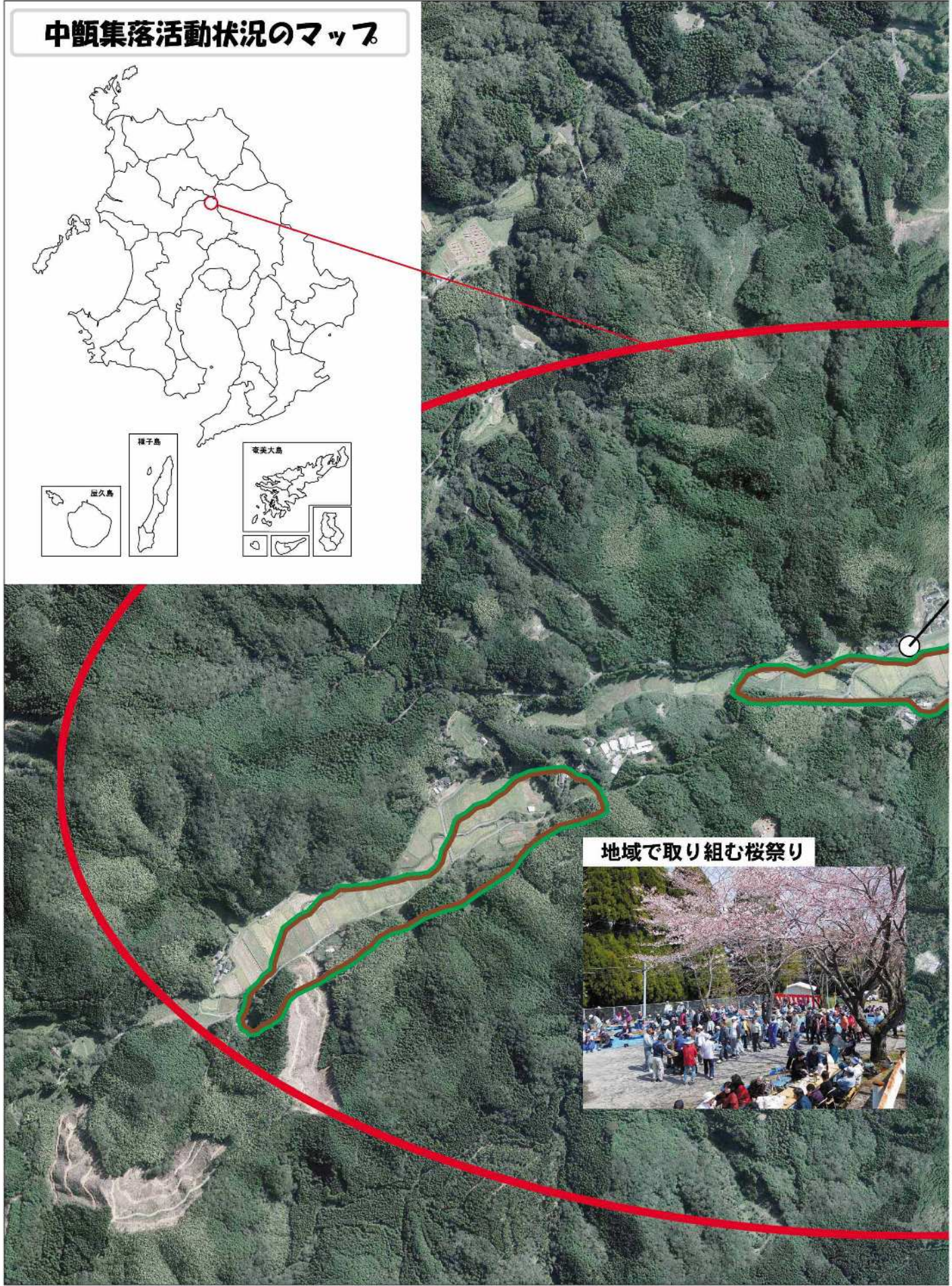
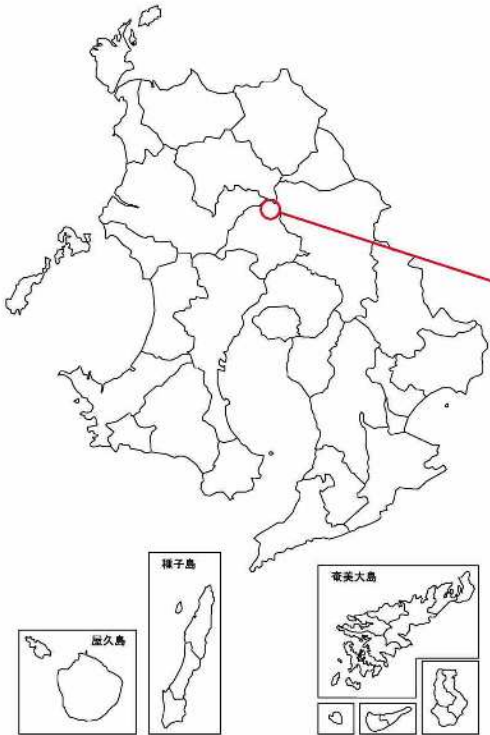
電話番号:0995(52)1211(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部

農政普及課

電話番号:0995(63)8146

# 中颯集落活動状況のマップ



地域で取り組む桜祭り










中甌集会センター



柱松



凡例

	むらづくり活動地区
	水土里サークル活動実施地区
	中山間地域等直接支払制度活用地区
	人・農地プラン作成地区
	農地中間管理事業実施地区